へ13
3689
28

門へ13
號 3689
巻 28

廿八編 金花七變化 上の巻

魯文 たゞの
國貞 ゑがく

野夫と化物い箱根うつさ絵人脱走し。牛角魔王ハ人間の食料と議定そし。一眼小僧ハ道中双六の紙上ホ轉回。三眼入道ハ目鏡屋の招牌と改業せり。斯迄閑化の化の皮。脱尽そしる江湖の情態。不思議なる事件ハあんものと。説得そしる格物究理を。河童のお化と歯牙ホろゆぎ。理外の理屈で議論を投け。金花の詞編を諾ひたもと。例の因循姑息の蕾弊。余りずるけのすゞ行月日。夫でハ書肆ゴの生活ホ。なるほどの高恰の。規則がたるかと大奮發。ちのうハ一番あやまりこと謝罪々々と降伏歸順。

伊東宗太
金花猫の怪異
小森半之丞

一日一夜の勉励。きたさのサッサと綴りあげ。急務を果し
て省官の。希望の掉る七変化。金花の代りに名ゆり筆頭。
サヅ御諭状あらぐるる

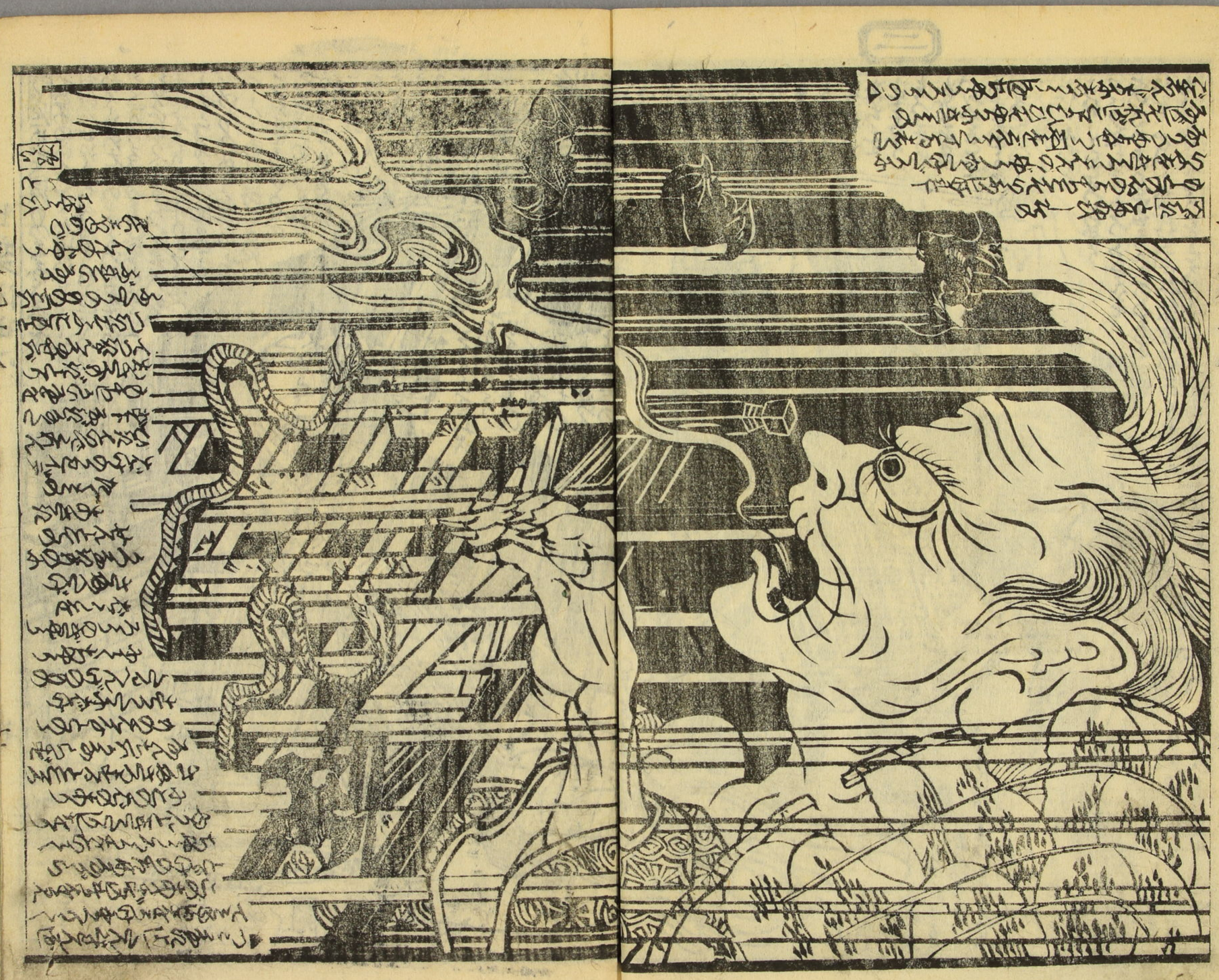
明治三年孟春發行

於浅草諏訪街新居

假名垣魯文漫誌

狂戯

二
半



浅草刈十社縁起　初編　種彦作　追く出板　國貞画

水鏡山鳥奇談　四編　秀賀作　五編　國周画

蓬莱嶋臺延壽盃　偶儡師　三編　魯文作　四編　國綱画

花の御所九重記　初編　秀賀作　追く出版　國貞画

本製丁子油　日本橋通十軒店　繪双紙　武藏屋勝之助

柳丁子の油は和漢よりゞ上品なれば常に好む人多し

文　地本雙紙問屋　金松堂　横山町三丁目　辻岡屋文助梓

假名垣魯文作
梅蝶樓國貞画

金花七変化

廿八編

下の巻

假名垣魯文作
梅蝶楼國貞画

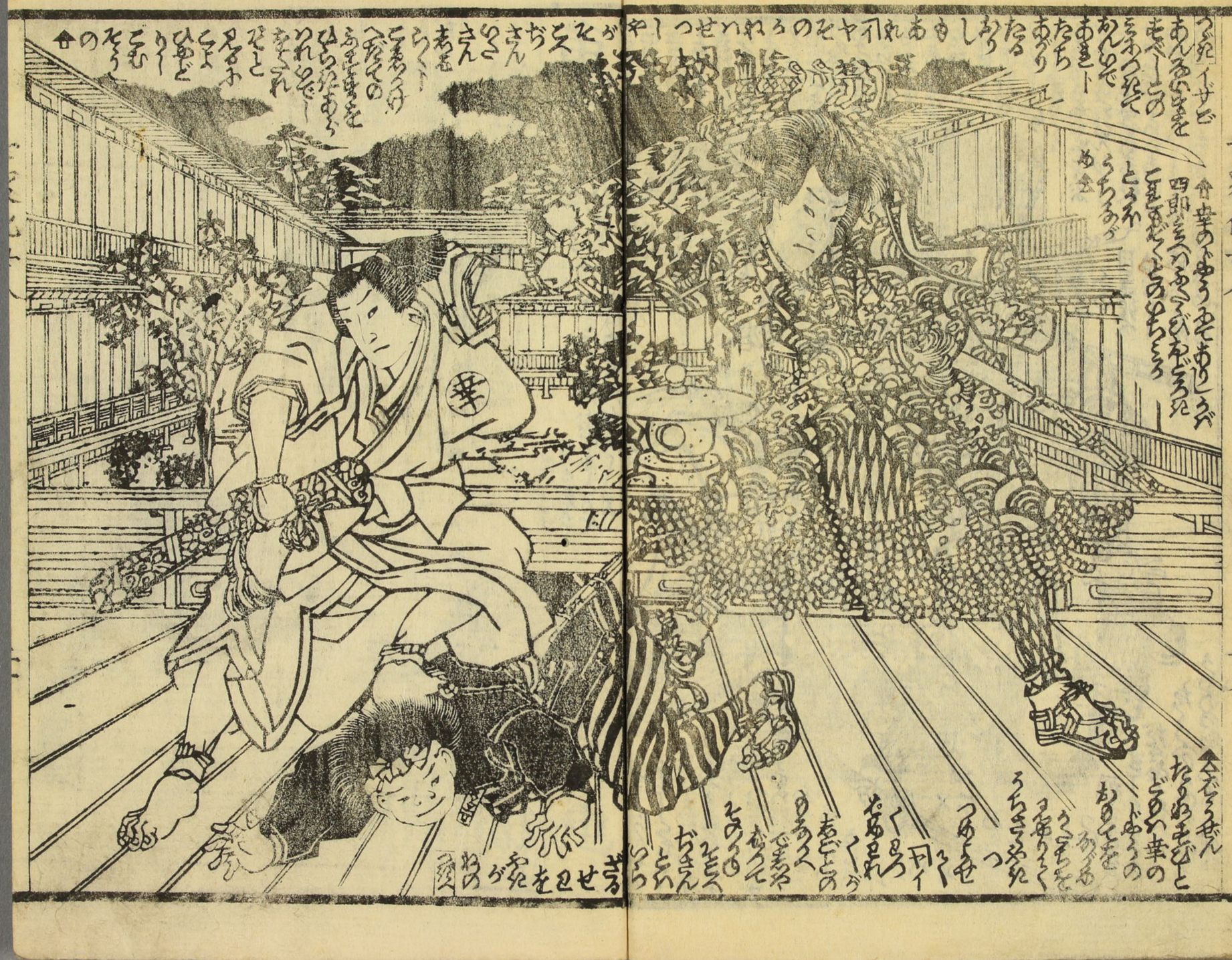
波屋

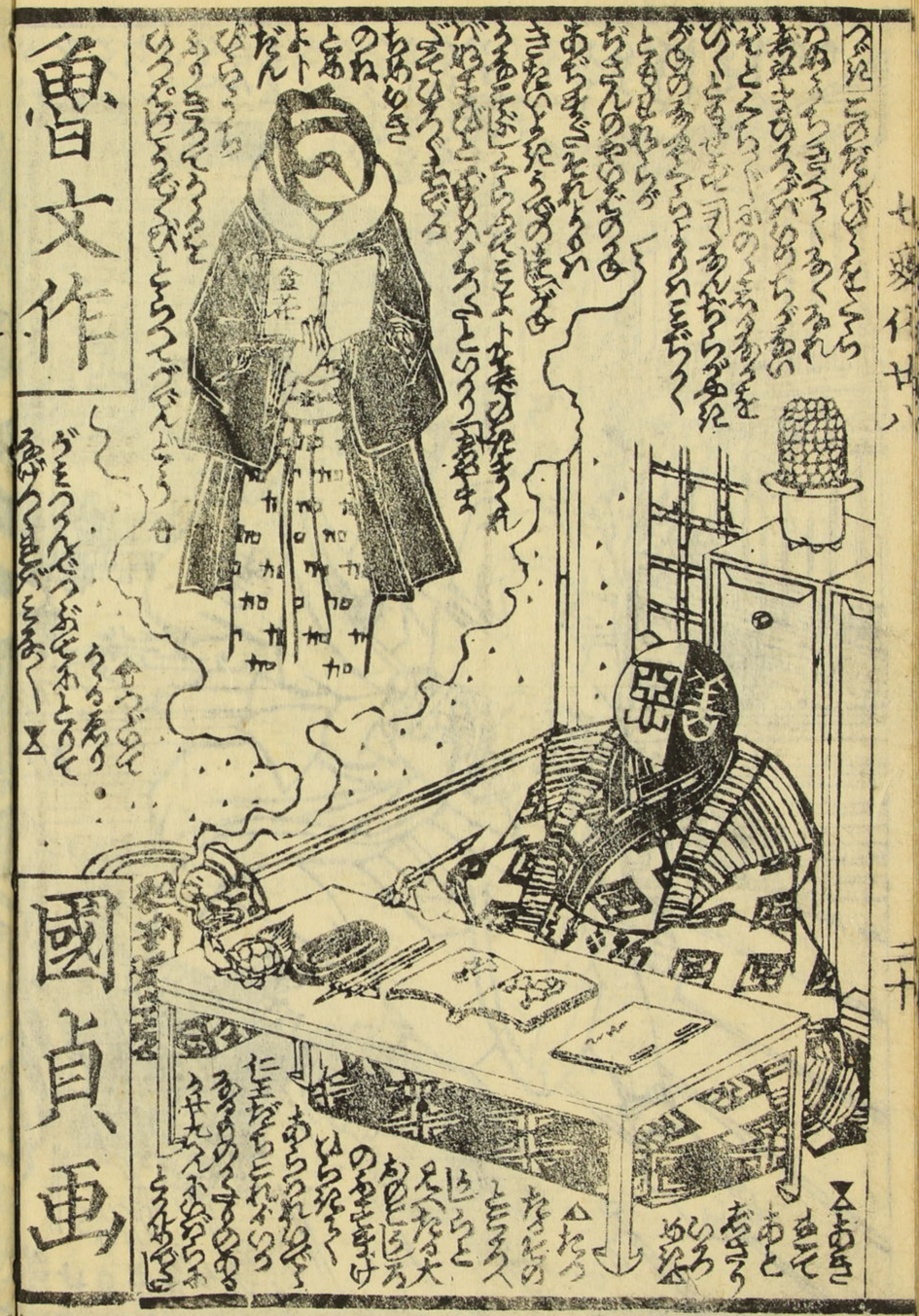
十七八

火の用心

春駒
人間万事向行借
オイー

世話仕ぶり





金華七變化　サハ編より追ゝ出板　魯文作　國貞画
右は蘇子卿の孫判官の作者惠二世一代の新案新工風勝れは忘を入古今の英才と倣ひ比べ者官競て言葉を尽す

唐詩佐加那　初編より追ゝ出板　山々亭有人作

周防染櫻模様　四編　五編　有人作　國貞画

梅春霞引始　三編　讀切　魯文作　國周画

濡衣女鳴神　十編　讀切　秀賀作　國貞画

假枕巽八景　二編　讀切　魯文作　國周画

道外江戸名所　大錦繪五十番續　廣景画

文　地本雙紙問屋　金松堂
横山町三丁目
辻岡屋文助梓